

# LMcorsa Race Report

## Super GT 2018 Rd,4 Chang GT



● H.YOSHIMOTO  
● R.MIYATA



● M.NITTA  
● Y.NAKAYAMA

7月1日 | 天候:晴れ | 気温:32度 | コース: BURIRAM INTERNATIONAL CIRCUIT | 路面温度:47度



● H.YOSHIMOTO  
● R.MIYATA

### Final Day Summary

16番手からスタートしたSYNTIUM LMcorsa RC F GT3は序盤から吉本選手が猛追をみせるとともに、チームもミスなくピット作業を終え後半のスティントを託された宮田選手も完璧なレース運びを行ないLM corsaに4シーズンぶりの表彰台をもたらす

### Final Day

3年ぶりに開催時期を変更してSUPER GTシリーズの第4戦として実施されることになった「Chang SUPER GT RACE」。SYNTIUM LMcorsa RC F GT3は、6月30日(土)に行なわれた公式練習では、吉本大樹選手と宮田莉朋選手の二人が順調に計44周を走行。結果は、宮田選手がマークした1分32秒703でトップからコンマ2秒差の3番手となり、前戦からの好調さを維持していた。

ところが、予選前にサーキットにスコールが降り、予選Q1はウエットコンディションでの争いとなる。SYNTIUM LMcorsa RC F GT3のステアリングを握った吉本選手は、レインタイヤのグリップ不足に悩まされタイムを伸ばすことができず、結果的に18番手で予選Q1突破を逃してしまう。それでも、上位勢の2台が車両規定違反によってタイムを抹消されたことで16番手から決勝レースをスタートすることになった。

予選日から一夜が明けてチャン、インターナショナル・サーキットは、早朝から晴れ渡るとともに強い日差しが差し込み、正午には気温が33℃まで上昇。前日に引き続いて、ドライバーとメカニックには厳しい戦いが予想された。



## Final Day

昼前から始まったピットウォークの後には 20 分間のサーキットサファリが実施され、その後には 20 分間のウォームアップも設けられていた。SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 を駆る二人のドライバーは、この 40 分間の走行枠でマシンの最終チェックを行なうとともにタイヤの路面コンディションのマッチングなども確認。合計で 24 周を周回して、ウォームアップ走行では宮田選手が 1 分 33 秒 808 のタイムをマークし、GT300 クラスの 23 台中 5 番手の好タイムで決勝レースを迎えることとなった。



決勝レースは予定通りの 15 時にローリングスタートによって幕を開けた。16 番手から上位を狙うことになった SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 は、スタートドライバーとなった吉本選手が猛追をみせる。1 周目に早くも 3 台をパスすると 2 周目に 1 台、3 周目に 1 台とみるみるうちに順位を上げていき、10 周目には 11 台を抜き 5 番手まで浮上していた。トップとの差も 10 秒以内で、11 台をパッシングしながらも安定したラップタイムを刻むという離れ業をみせる。12 周目にはさらに 1 台をパスして 4 番手にあがり、14 周目にはこの時点で全体のベストラップとなる 1 分 33 秒 971 をマークして、さらに上位との差を詰めていく。そして、22 周目にトップ 10 内のマシンでは 2 番目に早いタイミングでピットイン。

吉本選手はスタートから猛追したもののタイヤを労った走りをしたために、チームは負荷の高い左側 2 本のみでの交換でピット時間を短縮する戦略を採った。確実なピットワークによってタイムを削り後半のスティントを宮田選手に託した。コースに復帰した SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 は、まだほとんどのマシンがピット作業を終えていないため 13 番手となったが、実質はトップ 3 を争う状態まで順位を上げていた。残り 40 周近い長いスティントとなったが宮田選手は序盤から 1 分

34 秒安定したラップタイムを刻み、さらにタイヤマネジメントも行なう。徐々に先行車がピットインを終えるとともに順位は上がっていき、30 周目には 11 番手、40 周目には 6 番手、全車がピット作業を終えた 44 周目には 3 番手を走行。ここから表彰台を賭けた熾烈なバトルが繰り広げられる。SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 のすぐ後ろには 1 秒以内の差で 65 号車の AMG GT3、さらに 1 秒以内の差で 31 号車のプリウスが迫ってくる。



## Final Day

---

31号車は54周目に65号車をパスするとその勢いで55周目にはSYNTIUM LMcorsa RC F GT3に襲いかかる。必死に押さえ込む宮田選手だったが、31号車のペースが優れていてパッシングを許してしまう。55周目に4番手となり表彰台圏外へと落ちてしまったが、58周目に2番手を走行していた55号車のBMW M6 GT3にトラブルが発生したために3番手へ振り返り、61周目に見事に3位でチェッカーを受けた。

ウェットコンディションで不運な予選となったが、決勝レースでは18番手スタートから13台をパスする大躍進でLM corsaに4年ぶりの表彰台をもたらすとともにSYNTIUM LMcorsa RC F GT3としては初のポディウムフィニッシュとなった。



## Team Comment

---



Director : 飯田 章

最後はラッキー部分もありましたが、3位で表彰台に登れて良いレースウィークとなりました。前半のスティントを走った吉本選手は、見事なペースで見せ場を作ってくれました。公式練習やウォームアップなどでタイヤのデータを取った結果として、ピット戦略では初めて2本交換を選択しました。上位に進出するためには、この作戦を遂行するしかないのですが、宮田選手にはタイヤが苦しく負担を掛けたと思います。それでも、上位勢をしっかりと押さえて結果を残してくれました。欲を言えばキリがないのですが、予選でももう少し前に出たいと思います。残念な部分もあります。



Driver : 吉本 大樹

3位で表彰台に登れたことは素直に嬉しいですが、予選のことを考えると悔しさもあります。もし予選でQ2に進出していれば勝っていたレースなので、そこは残念です。ただ、チームもマシンも勝てるパフォーマンスを持っていることを証明出来ました。これまで地道にマシンを開発してくれた関係者の方やチームスタッフ、エンジニアに感謝します。レースは、クルマのセットアップとヨコハマタイヤが持ち込んでくれたモデルが絶妙にマッチしていて、ラップタイムも摩耗的にも非常に良かったです。また、初のサーキットとタイヤ2本交換も初めてだったのに確実に後続を抑えた宮田選手の頑張りがありました。次戦からはウエイトハンデが重たくなりますが、さらに強いチームを目指して結果を残していきたいです。



Driver : 宮田 莉朋

吉本選手が素晴らしい走りでも順位を上げてくれたので、担当した後半のスティントではトップ3争いになると感じていました。相当なプレッシャーがありましたが、平均的にラップタイムを安定させるように心掛けました。また、チームとしても私も初めての2輪交換だったので、どのようなフィーリングなのか心配でしたが、最後まで65号車をしっかりと押さえ込むことができました。ここまでの緊迫した接近戦は初めてだったので、色々と学べて、得られるものも多かったです。結果的には、チームが目標としていた表彰台を獲得できて良かったです。次戦以降は、さらに上位を狙って優勝できればと思っています。



 **H.YOSHIMOTO**

 **R.MIYATA**



● M.NITTA

● Y.NAKAYAMA

## Final Day Summary

5番手からスタートしたK-tunes RC F GT3だったが  
選択したタイヤが本来のグリップを得られなかったため  
ラップタイムを上げることができず、最終的に10位でフィニッシュ

## Final Day

3年ぶりに開催時期を変更して SUPER GT シリーズの  
第4戦として実施されることになった「Chang  
SUPER GT RACE」。

K-tunes RC F GT3 は、6月30日（土）に実施された  
公式練習では、新田守男選手が19周、中山雄一選手が  
24周の計43周を走行。結果は、新田選手がマークし  
た1分33秒116がベストタイムとなり10番手となっ  
た。突然のスコールによってウエットコンディション  
となった予選Q1では、最終ラップでベストタイムを  
記録して辛くも13番手で予選Q2に進出。スリックタ  
イヤを履いた予選Q2では、1分33秒110を記録して7番手となった。しかし、予選後の車検で  
上位2台に車両規定違反が見つかったため、2グリッド昇格し5番手から決勝レースを迎えること  
となった。



予選日から一夜が明けてチャン。インターナショナル・サーキットは、早朝から晴れ渡るととも  
に強い日差しが差し込み、正午には気温が33℃まで上昇。前日に引き続いて、ドライバーとメカニッ  
クには厳しい戦いが予想された。

昼前から始まったピットウォークの後には20分間のサーキットサファリが実施され、その後  
には20分間のウォームアップも設けられていた。決勝レース前の貴重な40分間の走行は、新田選手  
が最終的なセットアップなどを確認。サーキットサファリでは11周、ウォームアップ走行では12  
周を走行した。ウォームアップ走行でのベストタイムは1分34秒380で、11番手の結果となった。

## Final Day

心配されていたスコールもなく決勝レースは、予定通りの15時にフォーメーションラップによりスタート。チームは戦略の幅を持たせるために、ライフの長い硬めのスリックタイヤを履いてK-tunes RC F GT3をコースに送り出した。スタートドライバーを務めた新田選手は、1周目に1つポジションを落として6番手となるものの、その後は思ったようにペースが上がらない中でも巧みなライン取りで後続を抑え込み順位を守っていく。13周目には、7周に渡って押さえ込んでいた31号車プリウスの先行を許してしまうが、それでも7番手で20周目を迎える。21周目になると上位陣が徐々にピットインしてドライバー交換の作業を行なっていく。K-tunes RC F GT3は、ピットインのタイミングを引っ張る戦略を採っていたので、23周目には4番手、24周目には2番手まで浮上する。その後は、こちらもピットインのタイミングを遅らせた87号車と88号車のランボルギーニとのバトルになり、先行を許すもわずかなタイム差で続き、新田選手は38周目にピットイン。タイヤは前半のスティントで使用したハードからソフトに交換し、給油を行なうとともに中山選手にドライバーチェンジしてコースに復帰する。43周目には走行している全車がピットインを終え、この時点でK-tunes RC F GT3は11番手を走行。前走車は7号車のポルシェで、後ろからは34号車のNSXが迫り、3台はテールトゥノーズの状態で見守る。34号車はウエイトハンデが軽いこともありコーナーからの立ち上がりやストレートスピードに勝っている。中山選手は10周以上に渡って押さえ込むが55周目に抜かれてしまう。だが、2号車のマザーシャシーをパスしたことで11番手をキープ。このままポイント圏外でレースを終えるかと思えたが、58周目に2番手を走行していた55号車のBMW M6 GT3がトラブルによって後退したため、60周目に10位でチェッカーを受けた。

前戦の鈴鹿サーキットラウンドでは初優勝を遂げたK-tunes RC F GT3だったため、タイラウンドでも上位に入ることが期待された。そして決勝レースは5番手でスタートしたものの選択したタイヤがコースコンディションと合わずにラップタイムではライバル勢に離されてしまった。しかし、シーズンを考えると貴重な1ポイントが獲れたことが救いといえる。



## Team Comment

---



Director : 影山 正彦

レース序盤は硬めのタイヤを選択したので、ライバル勢に対して遅れをとることは想定内でした。その苦しい状況の中でも新田選手は踏ん張ってくれて順位をキープしてくれました。しかし、先行したマシンにタイム差を付けられてしまったので、後半のステイントで追いつけることができませんでした。最後は、55号車にトラブルが発生したために10位でフィニッシュできたことが幸いです。今回は、公式練習でタイヤ選択を見極めることができなかったことが、決勝レースでの苦戦に繋がりました。次戦以降は、持ち込みのタイヤを決勝レースやコンディションを想定したうえで判断して、最適なモデルを選べればと思います。



Driver : 新田 守男

ウォームアップのときにも感じていたのですが、タイヤのグリップレベルがあまり良くなく、それが決勝レースでも同様となりました。K-tunes RC F GT3は、高速コーナーを得意としているのですが、苦手の低速コーナーでライバル勢にパスされてしまい苦しい展開でした。担当したステイントは38周目まで引っ張ったのですが、もう少し早くピットインしていた方が良かったかもしれません。影山監督とも話しましたが、今回はタイヤチョイスを失敗してしまいました。次戦以降は、チームやタイヤメーカーとしっかりとコミュニケーションを取って、最善の策で戦っていければと思います。



Driver : 中山 雄一

後半のステイントを担当したのですが、新田選手が履いたタイヤとは異なる柔らかめのモデルを選びました。内圧が上がりきるまでは、車重やガソリンの重さが影響してペースが上げられず、最初の数周は苦しい状況でした。また、前戦の鈴鹿ではコースコンディションに合わせてセットアップが出来て一発の速さも持っていましたが、タイのコンディションには合わせ切れませんでした。そのため、コーナーでの速さが足りず、ポジションを競い合っていた34号車にも最終的に抜かれてしまいました。10位でポイントを獲得したことは、シリーズとしては良かったと思いますが、さらに強くなるために戦略やセットアップを見つける必要があります。

**96**



**K-tunes**  
RACING

 **M.NITTA**

 **Y.NAKAYAMA**